

研究構想図

【学校教育目標】

人間尊重の精神を基調として、心身ともに健康で、学ぶ意欲をもち、創造的な思考力・判断力・表現力や豊かな情操を備え、国際社会において信頼され、すすんで貢献する人間性あふれる児童を育てる。

そのために「知ることから生きることへ」を教育理念として、次の目指す児童像を設定する。

◎やさしく ○かしこく ○たくましく

目指す児童像 「主体的に読み、表現する児童」

低学年 内容の大体を捉えながら読む子。感じたことや分かったことを交流する子。

中学年 叙述を基に捉えながら読む子。感じたことや考えたことを交流する子。

高学年 描写を基に捉えながら読む子。交流を通して、自分の考えを広げる子。

くすのき学級 内容の大体を捉えようとする子。感想をもったり交流したりする子。

きはだ学級 読んだことを理解しようとしたり、深めたりする子。考えたことを相手に分かりやすく伝えようとする子。

児童が主体的に読み、表現する指導の工夫

— 文学的な文章を通して —

【研究の方法～4つの視点～】

1. ユニバーサルデザイン（どの子にとっても分かりやすい授業の工夫）
（視覚化、構造化、ユニット化、焦点化、共有化、個別的な配慮、ICTの活用）
2. 学び方の習得 → 「うさ松の秘伝書～物語文の巻～」の活用
3. 言語活動の工夫（読む必然性と意欲をもたせる） 4. 語彙の習得（キュピナの活用）



【児童の実態】

- ・読むことは好き。読み方や言語活動を指導すると、活用する力はある。
- ・説明文の読み方は分かってきたが、物語文の読み方や表現方法が分からない。
- ・人物の気持ちや心情などを想像する力が弱い。
- ・キュピナに取り組み語彙力は付いてきたが、適切に語彙を活用するまでには至っていない。



【本校の特徴】

- ・特別支援学級「くすのき学級」（知的障害）、「きはだ学級」（肢体不自由）を併設。
- ・特別支援教室「すまいる」拠点校。・通常学級の中にも特別な支援を要する児童が多い。

【研究の仮説】

4つの視点「ユニバーサルデザイン」「学び方の習得」「言語活動の工夫」「語彙の習得」を基に指導の工夫を講じた「文学的な文章」の学習を積み重ねることで、児童が主体的に読み、考え、それを表現する力の育成につながるだろう。